

佐賀大学構内の道路環境に関する 意識調査とその対策

佐賀大学 理工学部 正 鬼塚克忠
〃 〃 〇学 田村伸司

1. まえがき

現在、佐賀大学構内における道路環境はあまり良いものとは言えない。道路には路上駐停車両があふれ、歩行者が快適に安心して通行できるものとは思えない。そこで、本研究では、大学の学生、教職員を対象とした意識調査（アンケート調査）により現状を把握し、道路環境の改善を提案するものである。

2. 大学の現状

佐賀大学は、総数 5,879人（学生 5,301人、教職員 578人）、総面積28.3ha（本庄地区キャンパス）の規模を持つ大学である。平成2年度現在、駐車場は10ヶ所、合計 542台の駐車スペースを持っているが、車による通勤・通学のための登録台数は 1,258台で慢性的な駐車場不足となっている。また、大学の中を南北に市道が通っているため思うように交通対策を行えない状況にある。交通量が多い朝夕の時間帯において、大学構内で最も交通量の多い道路のバイク・車の台数は、A.M. 8:00～9:30において、延べ70台・427台、P.M. 4:30～6:00において、延べ70台・449台となっている。車が多いのは、公共交通機関の不便さの一つの要因だと思われる。参考として、大学構内図を図-1に示す。

3. 意識調査の概要と結果

1) 意識調査概要

佐賀大学構内の道路環境の現状と対策の指針を把握、検討するために現状と改善のそれぞれ12, 10項目、その他13項目について、大学構内で、全体の約11%にあたる総数 651人（学生 506人、教官94人、職員51人）に対して、調査票を配布し、アンケート調査を行った。アンケート項目の一部を表-1に示す。

2) 意識調査結果

アンケート結果からマイナス要素が大きいものでは、「車の交通量が多い」と答えた人が82%、「路上駐停車が多い」では87%、「道路幅員が狭い」では73%、「歩道がない」では75%にのぼっているものが挙げられる。安全性と歩きやすさの項目について単純集計したものを表-2に示す。安全性の面では、全体で76%もの人が「危険」と考えていることが分かる。そ

図-1 大学構内図

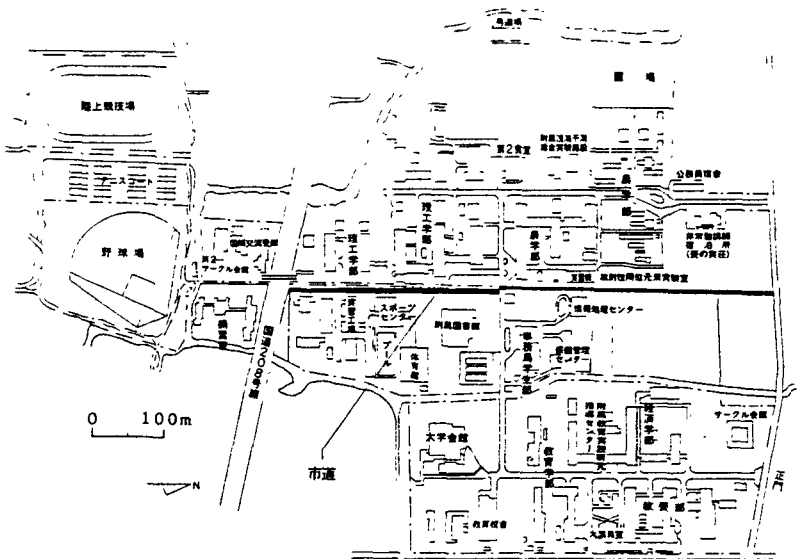


表-1 アンケート項目の一部

	項目	選択肢
現 状	・路上駐停車	1. 多い 2. どちらでもないか 3. 少ない
	・道路幅員	1. 多い 2. どちらでもないか 3. 少ない
	・安全性	1. 危険 2. どちらでもないか 3. 安全
改 善	・交通量抑制	1. 必要 2. 必要は 3. 不要 4. 不明
	・路上駐停車禁止	1. 必要 2. 必要は 3. 不要 4. 不明
	・歩道設置	1. 必要 2. 必要は 3. 不要 4. 不明

表-2 安全性と歩きやすさ

	安全	どちらでもないか	危険	計 人 (%)
安全性	14 (2.1)	143 (22.0)	494 (75.9)	651 (100)
	歩きやすい	どちらでもないか	歩きにくい	計 人 (%)
歩きやすさ	34 (5.2)	276 (42.4)	341 (52.4)	651 (100)

の一つの表われとして、大学構内の道路でケガをしたり、または事故に遭った人が約 7.2%、47人もいることが挙げられる。これらの原因となるのは先に挙げたアンケート結果によるものが大きいと推測される。一方、歩きやすさでは、半数の人が「歩きにくい」と答えている。3段階ではなく、5段階評価であればもっと多くの人が「歩きにくい」と答えたのではないかと考えられる。

道路評価の一つの基準となるものを表-3に示す。これは、アンケートの選択肢に番号を付け、一人一人について現状と改善の項目でそれぞれ番号値を合計し、評価度、要求度ともに最低が 0、最高が 100 であるように換算したものである。これはあくまで道路評価の一つの目安としたもので具体的な根拠があるものではないが、評価度がかかなり低いことが分かる。その割には要求度がそれほど高いとは言えず、具体的な改善の要求が提示されていないようである。また、教官・職員・学生の順で大学構内の道路環境に対する関心が高いと言える。

表-3 道路評価

現状について (評価度)	学生	24.6
	教官 職員	17.5 23.3
	TOTAL	23.3
改善について (要求度)	学生	53.3
	教官 職員	64.3 62.0
	TOTAL	55.7

4. 対策と道路計画の検討

アンケートの改善項目の結果から具体的な対策として、70～80%の人が「車の交通量抑制」、「道路幅員の拡張」、「路上駐停車禁止」、「歩道・街灯の設置」、「バイク・車のスピード抑制」を挙げている。「バイク・車のスピード抑制」には、車道部分を直線ではなく障害物を設けたり、クランク・ハンプを用い、歩車共存道路を設置する。「道路幅員の拡張」、「路上駐停車禁止」、「歩道の設置」は、緊急時などの事態を考慮し、車道部分を狭く歩道部分を拡張する。

特に、路上駐停車については、未登録車による駐車違反(1日平均 140台)も一つの要因であるので、有効な締め出し対策が必要である。このためには大学構内を通る市道を買上げ、その出入口に門を設置するなど、行政的対策も不可欠である。

5. あとがき

現在、まだアンケート調査票の未処理のものが残っているので、追加、整理し、歩きながら思索できるような大学にふさわしい道路環境造りを目指していきたい。

なお、本研究のご指導を頂いた本学部の清田勝助教授、調査及びデータの整理にご協力頂いた吉武茂樹助手に感謝の意を表します。